

学校現場、教育委員会、大学院生という立場から

見えてきたもの

その1 「研究は高配当を生む優良株である」

私は現在教職大学院に実務家教員としてこの4月より勤務をしています。中学校教員を29年間務め、その後教育委員会3年勤務のあと、現在に至っています。中学校教員をしている間に大学院修士課程に2年間在籍しました。そして教育委員会勤務から現在にかけて博士課程に在籍しています。本連載は「若手会員の研究者としての成長を支援する企画」とHPには記載してありますが、年齢的には「若手」ではない私、そして研究者としてはまだまだ「若手」の私から、3つの立場を経験して研究について見えてきたものを今回から3回にわたり書きます。

1. 誇れるような動機もなく、漠然とキャリア教育の世界へ

私は平成17年に大学院に入学しました。なぜ、大学院に入学したのか。それは妻が内地留学に行っていて楽しそうに勉強していたからです。うらやましさと生徒指導について学びたかったことから、新潟県教育カウンセラー協会の関係でつながりのあった松井賢二先生のところへお世話になることになりました。自分はいわゆる「荒れた学校」に勤務することが多かったので、問題行動を未然に防ぐことに興味がありました。それにはキャリア教育が有効だと知り、学ぶことにしました。

しかし、研究テーマはなかなか絞り切れませんでした。はじめはキャリア教育に関する書物を漠然と読んでいました。そして学会に参加する中でようやく研究テーマが絞れ、研究計画ができあがりました。研究のスタートが遅かったせいで、修士論文執筆は、とても苦しいものでした。特に大学院2年目は現場の仕事をしながらでしたので、思うように執筆が進みませんでした。最後の2.3日はほぼ徹夜でした。

2. 苦しみが喜びに変わるときがやってきた

私は大学院（修士課程）を修了した年、勤務校で研究主任になりました。管

理職や校内の研究推進委員会に所属する職員と話し合い、校内研究に「キャリア教育」の視点を入れることとなりました。自分の研究が現場に生かされてうれしかったことを記憶しています。

大学院を修了した頃、時期を同じくして新潟県はキャリア教育に力を入れるようになりました。現場ではまだキャリア教育に関する理解が進んでいなかった時期でもありました。新潟県キャリア教育パイロット事業協力者会議委員をさせていただいたり、県立教育センター主催の「キャリアカウンセリング基礎講座」等で実践発表をさせていただいたりする機会を与えていただきました。自分にとっては日々の業務の他にそれらの仕事をするは大変でした。なぜ、乗り越えられたのか今思うと自分の研究が生かされている、自分が研究したことを通して他の人の役に立っているという実感がもてたからではないでしょうか。

3. 研究は高配当を生む優良株

たいした研究をしていない私が言うのはおこがましいですが、研究することは苦しみを伴います。他に仕事があるなど、研究だけに没頭できる環境にない場合があります。私自身、研究が進まず、博士課程を1年間休学しました。でも研究とは研究する過程で得られる学びは喜びに変わり、その喜びをもとに更に研究をし続けることができるものだと思っています。そして研究をしているうちに「知」という財産がどんどん増えてきます。それがまた喜びであるとも思っています。研究はあたかも高配当を生む優良株のようでもあります。

4. 逃げずにがんばりたい

今、私は博士課程に在籍していますが、研究は正直なところ進んでいません。研究計画もまだできていません。新しい職場にきたことをいいわけにして、研究から逃げていました。今のままではこの先苦しいことはわかっています。この執筆を依頼されて、このような文章を書いたからには逃げるわけには行きません。自分も頑張りたいと思っています。研究は「知」という財産を生む高配当の優良株です。手放すわけにはいきませんね。

(新潟大学 田村和弘)